「アレルギーと防災、誰もが安心して暮らせる地域へ」報告

（渋川市で開催）

病気や障害、さまざまな生きづらさを抱える人たちと、
私たちは地域でどう一緒に暮らしていくのか。

防災というキーワードからみんなで考えるきっかけとなりました。
災害時には、自分で備える「自助」が大切です。
でも、それだけでは乗り越えられないことがあります。
普段から「こういうことで困る人がいる」と知り、事者も自分に必要な配慮を伝え、地域の中でつながっておく。
その積み重ねが、いざというときの「共助」につながります。

講演の最後には、群馬のラブベリーズのみんながダンスを披露しました。
かっては人前に出ることに不安を感じ、励まされる側だった私たちが、今では誰かに笑顔や勇気を届ける側になっています。

共生とは、誰かが一方的に助けることではありません。
支えてもらった人が、いつか誰かを支える人になる。
誰にでも、その人だからこそ誰かに渡せるものがあります。
知ること。伝えること。つながること。

一人ひとりが自分らしく生き、それぞれの力を誰かのために生かせる地域を、皆さんと一緒につくっていきたいと思います。